

## 「長野県中学校登山動向アンケート調査」のまとめ

長野県山岳総合センター

### はじめに

長野県山岳総合センターは、4～5年に一度、県内の中学校における学校登山の実態調査を行っている。直近では平成29年度に調査を行った。

今年度、学校教育現場では、新型コロナウイルス感染防止対策のため学校行事の中止や変更が多いと聞いている。その中で、県内の中学校における今年度の学校登山の実態と来年度の動向について、アンケート調査を実施した。

調査対象は、県内の県市町村立中学校188校。すべての学校より回答をいただき、集計した結果が以下の通りであった。

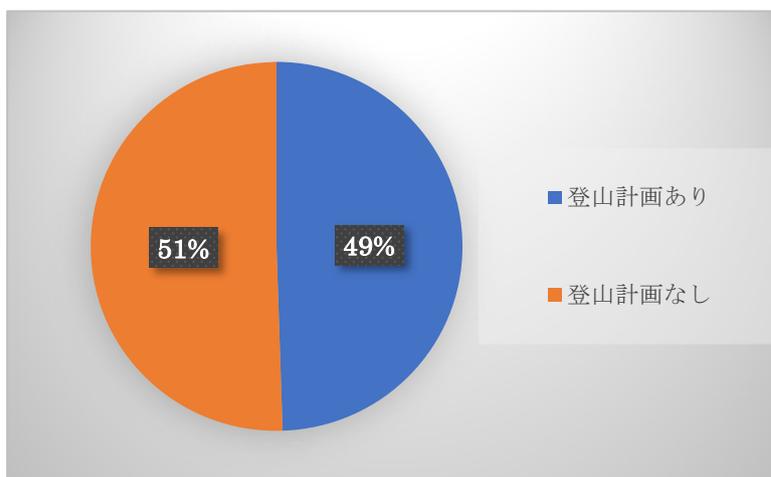
尚、中学校における学校登山の実施状況については、毎年、長野県教育委員会学びの改革支援課が「学校経営概要のまとめ 小中学校編」の中で公表している。

ここでは、①日数別実施校数 ②目的地別実施校数 ③学校登山における同行者（同行者の有無・同行者の内訳・同行者の経費・安全対策）についてまとめている。

令和2年度版は、令和2年5月1日現在での調査結果であり、その後新型コロナウイルス感染防止対策の理由により、実際の実施状況とは大きく異なっていると思われる。こちらの資料も併せてご覧いただければと思う。

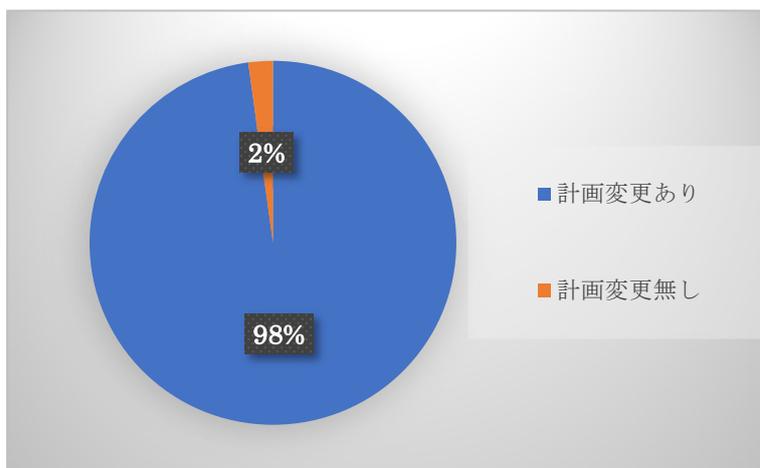
### アンケート結果

#### 1. 年度当初における学校登山の計画の有無



全188校中、年度当初に学校登山を計画した学校は93校、率にして49%。学校登山を計画しなかった学校は、188校中95校、率にして51%だった。

## 2, 年度途中における計画の変更の有無



年度当初に学校登山を計画していた 93 校中、91 校、率にして 98%の学校が計画を変更した。

計画通りに実施した学校は 2 校のみ。この 2 校は、日帰り登山を実施している。

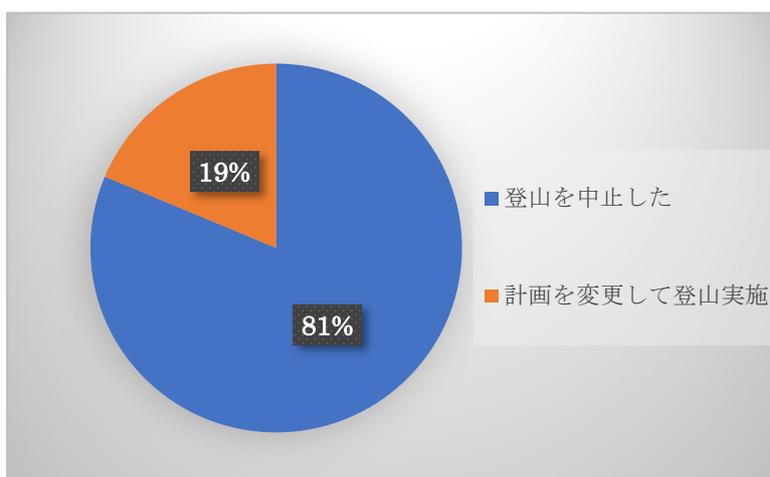
## 3, 年度途中に計画を変更した理由

年度途中に計画を変更した 91 校中、ほとんどの学校（90 校）がコロナウイルス感染防止対策のため計画を変更した。90 校の中には、感染防止のため山小屋が営業休止になったり、バスが運休になったりしたためと回答した学校を含む。

また、2020 年春の上高地など北アルプス周辺での群発地震を計画変更した理由に挙げている学校も数校あった。

コロナウイルス感染防止対策以外の理由（豪雨による土砂災害）で変更した学校は 1 校あった。

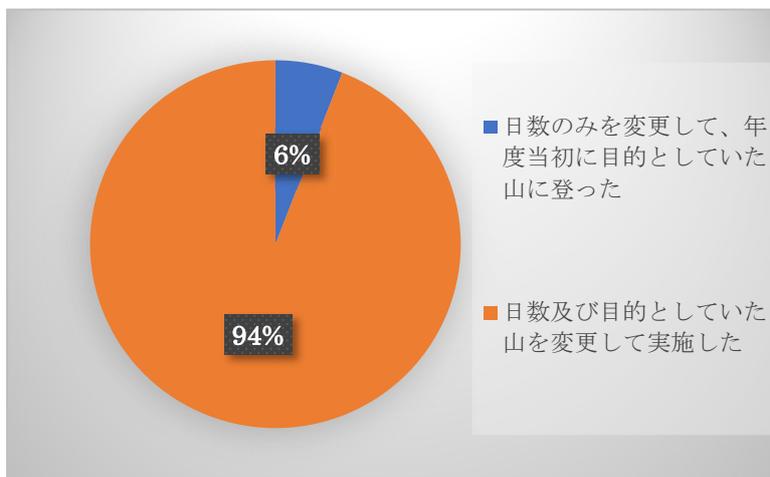
## 4, 年度途中での計画変更の内容



年度途中に計画を変更した 91 校中、74 校、率にして 81%の学校で登山を中止にした。

残りの 17 校、率にして 19%の学校は、目的の山や、日数(1泊2日を日帰りに計画変更する等)を変更して登山を実施している。具体的な変更内容は次の項目で示す。

### 5. 年度途中で計画を変更して登山を実施した学校(17校)の具体的な変更内容



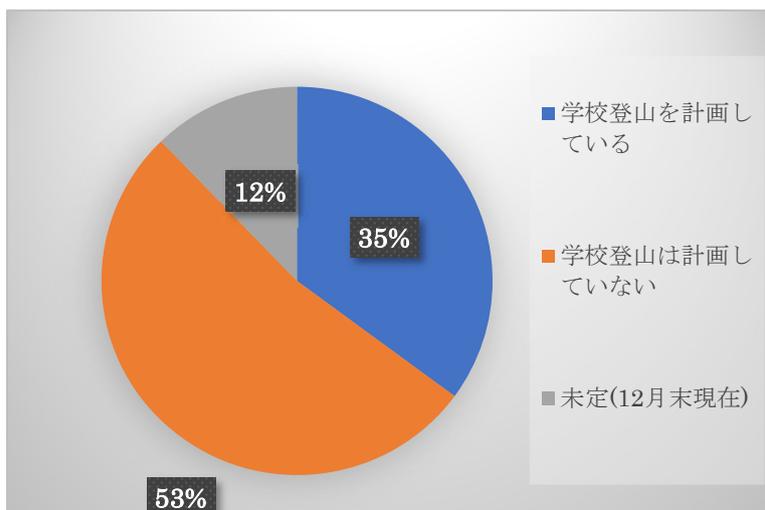
日数のみを変更して、年度当初に目的としていた山に登った学校は1校。登った山は木曾駒ヶ岳。

日数及び目的の山を変更して登山を実施した学校は16校。具体的には、

- ・目的の山を、里山に変更して実施
- ・上高地や乗鞍高原等の散策に変更して実施
- ・八方尾根途中の八方池までや、中央アルプス千畳敷から浄土乗越までの登山のように、日帰り登山の範囲内に目的地を変更して実施

といった変更内容がみられた。

### 6. 来年度、令和3年度の学校登山の計画の有無



アンケートを実施した12月末現在で、令和3年度に学校登山を計画している学校は、188校中66校、率にして35%。計画をしていない学校は、99校、率にして53%。学校登山の実施の有無が未定の学校は、率にして12%に当たる23校だった。

## 7. 令和3年度、学校登山で登る計画をしている山

質問では、「山小屋泊を含んだ1泊2日以上に登山を計画している」か、「日帰り登山を計画しているか」の二者択一としたが、学校によっては、山小屋泊ではなく麓の旅館等に宿泊する場合も、「山小屋泊を含んだ1泊2日以上に登山を計画している」と答えていた。質問の仕方が悪くてご迷惑をかけたしまった。

そこで、「山小屋泊を含んだ1泊2日以上に登山」か「日帰り登山（1泊2日の宿泊行事の中で、麓の旅館に泊まったの日帰り登山、または1日の行事での日帰り登山）」かを山岳総合センターが判断して、下記の様にまとめた。

### 【山小屋泊を含んだ1泊2日以上に登山として計画をしている山】

中央アルプス	南アルプス	八ヶ岳	御嶽山	北アルプス
・木曾駒ヶ岳	・仙丈ヶ岳	・東天狗岳 ・根石岳 ・硫黄岳	・御嶽山	・唐松岳 ・燕岳 ・爺ヶ岳 ・奥穂高岳

### 【日帰り登山として計画をしている山（麓の旅館等への宿泊を含む）】

中央アルプス	八ヶ岳	北アルプス	その他
・木曾駒ヶ岳 ・傘山	・北横岳 ・茶臼山 ・蓼科山	・八方尾根 (八方池又は丸山ケルンまで) ・乗鞍岳 ・西穂高岳(丸山まで?)	・四阿山 ・入笠山 ・上高地 ・鬼面山 ・風越山 ・立山 ・黒姫山

## アンケート結果の分析及び考察

### 【令和2年度について】

令和2年度当初、県内の中学校で学校登山の計画をした学校は、188校中93校、率にして49%だった。

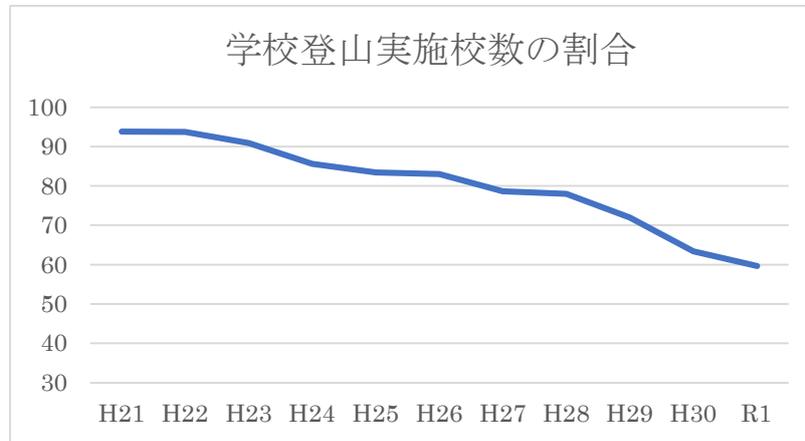
当センターが3年前の平成29年度に調査をした結果では、学校登山を計画した学校は188校中129校、率にして69%。この3年間で、学校登山を計画した中学校は36校少なくなっている。

今年度、実際に登山を実施した学校は19校（年度当初の計画通りに登山を実施した2校と、年度途中で計画を変更して実施した17校を併せて）で、全ての学校で日帰り登山となっている。この19校の中には、高原散策といった遠足的な行事を実施した学校も含まれている。

実施時期について調査はしていないが、コロナ第2波がやや落ち着いた8月後半から9月にかけて、バス移動等の場面で十分な感染防止対策をとって日帰り登山を実施したものと思われる。

### 【ここ 10 年間の動き】

次の折れ線グラフは、長野県教育委員会学びの改革支援課から出ている「学校経営概要のまとめ 小中学校編」の資料より作成したものである。



平成 21 年度、県内の中学校での学校登山の実施率は 93.8%。9 割を超える中学校で実施していた。

それから 10 年後、年号が変わった令和元年度に学校登山を実施したのは、全体の 59.7% に当たる 111 校。9 割を超えていた学校登山実施率は、ここ 10 年間で 6 割を割り込むまで減ってきている。

そして令和 2 年度、学校登山を計画していた学校は 5 割を切るまでに減ってきている。

この減少には、いくつかの理由があると思う。一つは、その学校や地域及び生徒の実態を考慮したうえで、学校行事の内容として登山以外を選択した結果と思われる。

また別の理由としては、

- ①登山は、他の行事に比べて運動強度が高いこと
- ②運動強度が高いがゆえに、最初から登山に参加できない生徒が他の行事より多いこと
- ③自然を相手にする上での安全性の問題や天候に左右されやすい点
- ④登山に同行する医師や看護師の確保が難しくなっていること
- ⑤教職員の登山の経験不足
- ⑥登山装備を用意する保護者の経済的負担の問題

等が考えられる。

減少の理由は、各学校や地域によって、また生徒一人ひとりによっていろいろあると思うが、ここ 10 年間での学校登山の実施率の激減は、長野県が日本を代表する山岳県であることや学校登山のもつ体験活動として意義を考えると、見過ごすことはできないと考える。

### 【令和 3 年度の動き】

調査をした段階では、188 校中 35% に当たる 66 校で学校登山を計画している。また、登山をするかしないか未定の学校は 12% にあたる 23 校あった。この 23 校すべてが学校登山を実施したとしても、令和 3 年度に学校登山を実施する中学校は、県内

中学校の47%の実施率となる。

登る山については、山小屋泊を予定している学校は25校程度。学校登山を計画している学校の38%にあたる。山小屋泊で登る山として多いのは、木曾駒ヶ岳と、八ヶ岳硫黄岳。木曾駒ヶ岳については、ロープウェイを利用して日帰りで登るといふ学校も何校かある。

日帰り登山として計画しているうちの多くの学校では、宿泊行事のひとつとして、例えば、「八方尾根丸山ケルンまでの日帰り登山＋白馬村での旅館泊＋白馬村内でのアウトドアスポーツ体験」といった2日間の行事として計画しているものと思われる。

## 【山岳総合センターとして取り組んでいきたいこと】

### ①学校登山のもつ意義について考えていく

学校登山のもつ教育的意義を考えるために、学校登山における生徒の意識調査として、下記の様な内容の調査研究を行ってきている。

- ・2014(平成26)年「長野県の中学校登山における生徒の意識調査」
  - ・2015(平成27)年「学校登山における生徒の意識に関する調査結果と考察  
～山小屋泊登山と日帰り登山の比較を中心に～」
  - ・2016(平成28)年「学校登山における生徒の意識に関する調査結果と考察  
～登山前と登山後の生徒の意識の比較を中心に～」
  - ・2019(令和元)年「学校登山における生徒の意識に関する調査結果と考察  
～登山実施前と登山後の自己肯定意識の比較をもとに～」
- \*上記4件の調査研究については、当センターのHPに掲載あり

これらの意識調査を通して、「友達と一緒に登る山という要素が強い学校登山を通して、生徒たちは普段の生活ではなかなか学べないことを学んでいる」という学びの大きな一つが、自己肯定感の向上に結び付いているということがわかった。

学校登山のもつ意義については、今後も研究を深めていきたい。

### ②学校登山の意義やすばらしさを、多くの方に知ってもらおう

学校登山をテーマにした動画「学校登山～120年の歴史を未来へ～」を制作し、動画投稿サイトYouTubeに公開した。多くの方に視聴してもらい、学校登山について考えてもらう機会としたい。

### ③学校登山を実施しやすい環境づくりを進める

諸機関とも連携して、下記の様なことを考えていきたい。

- ・学校登山ガイドの登録制度
- ・登山ボランティアや大学との連携による学生ボランティアの活用法
- ・学校登山用具のレンタル制度の協力依頼

### ④登山に向けての事前学習への関わり方の検討

具体的には、次のようなことを今後進めたいと考えている。

- ・生徒向けの事前学習用教材の作成（登山準備、登山に向けての心構え等の動画）
- ・事前学習へのセンター職員派遣

⑤引率学校教職員向けの研修会の継続開催（令和3年度は、6月3日（木）を予定）

⑥今後の「学校登山」のあり方についての模索

「山や登山・自然」を通して学ぶという観点から、単に登るだけではなく、他のことも学ぶ教材としての「山や登山・自然」の活用の仕方を考えていきたい。

## **最後に**

予想もしなかったコロナ禍の令和2年度もあとわずか。学校現場では、今なおコロナウイルス感染防止対策で、先生方をはじめ児童・生徒、そして保護者の皆さんも大変な日々をお過ごしのことかと思う。

同じような状況は、少なくとも令和3年度も続くことが予想される。

このような中では、バス移動や宿泊を伴う学校行事の実施を見送ったり、例年とは異なる内容の行事になったりする可能性が高いだろうし、ましてや、密な環境にならざるを得ない山小屋泊の学校登山の実施は難しい状況にあると思う。

ここで危惧していることは、一度中止になってしまった学校登山が、コロナ禍が終息した後も中止の状態が続くのではないかということだ。

山岳県長野に住む子どもたちにとって、信州の山は、今までもそしてこれからも自然体験や社会体験などの体験活動を充実させる貴重なフィールドであり、学校登山は価値のある自然体験活動と考える。

中学校における学校登山だけでなく、小学校における登山遠足が今後も継続され、子どもたちにとって楽しく安全なものになるよう山岳総合センターとしても取り組んでいきたい。

最後に、お忙しい中、今回の調査に協力いただいた県内188校の中学校に心よりお礼申し上げます。